

# 令和6年度 第1回山形県スポーツ推進審議会 議事概要

日 時：令和6年9月9日（月） 14時00分～15時40分

場 所：県庁1001会議室

参加者：出席者名簿のとおり

## 1 開会

## 2 挨拶（観光文化スポーツ部長）

## 3 会長及び副会長互選

委員の互選により、阿部委員が会長、奥山委員が副会長に選任

## 4 議事概要

### (1) 事務局説明

事務局から各項目について説明

①山形県スポーツ推進計画の令和5年度の施策評価について 資料1-1、1-2

②第2期山形県スポーツ推進計画の策定について

・第2期山形県スポーツ推進計画の策定について 資料2-1

・第2期山形県スポーツ推進計画の方向性について 資料2-2

・第2期山形県スポーツ推進計画 骨子案について 資料2-3

・第2期山形県スポーツ推進計画策定スケジュールについて 資料2-4

### (2) 意見交換

委員からの主な御意見等については、以下のとおり。

### 【板垣由紀子 委員（最上町教育委員会教育文化課 課長）】

- ・ 最上町は、昨年度の「山形雪未来国スポ」のアルペン競技会場となった。暖冬の影響で雪が少ない中ではあったが、多くの方の協力により大会を開催することができ、町の盛り上がりや施設整備につながった。
- ・ 暖冬や熱中症への対応など、気候変動や社会環境の変化にどう対応していくのか考えていく必要がある。

### 【栗田和真 委員（山形県中学校体育連盟 会長）】

- ・ 子どもたちのスポーツ離れを非常に心配している。小さい頃のスポーツ体験がないことで大人になってからスポーツに取り組む意識が薄れれば、生涯スポーツの基盤が揺らぐ可能性がある。
- ・ 部活動の地域移行については、各市町村と連携して上手に進めていかないといけない。スポーツ、部活動の魅力をどんどん発信していかないと、子どもたちがスポーツをしようと思わなくなる。

- ・ 具体的な施策を検討していく中で、基本方針2「子どものスポーツ機会の充実と体力の向上」に少し重点を置いてもらえると、将来的な見通しが明るくなると考える。

#### 【細谷尚寿 委員（山形県高等学校体育連盟 会長）】

- ・ 持続可能性、ウェルビーイング、多様性の3つは大切な考え方と認識しており、これらを施策にどう反映していけるかが今回の焦点の一つになると考えている。
- ・ 競技力向上については、アスリート、指導者、環境（施設）の三角形が大きければ大きいほど、競技力向上につながると考えている。現在、県として屋内スケート施設の在り方に関する議論も行われているが、施設について中長期的なビジョンを示していくことが必要と考えている。
- ・ 国民スポーツ大会のあり方について議論が活発化する中、本県の目標値（天皇杯順位全国20位台）については、他の指標も考えていく必要があるのではないか。また、県から競技団体に配分している強化費補助の選択と集中も必要になってくるのではないかと考えている。
- ・ 全国的なスポーツイベントの開催は、地域に感動や勇気、希望をもたらすものであるため、誘致の検討もお願いしたい。

#### 【佐藤勝子 委員（山形市立楯山小学校 校長）】

- ・ 持続可能性やウェルビーイングという観点からも、近年の体育授業においては、子どもたちがそれぞれの目標に挑戦し、1人1人が面白く楽しく、それぞれレベルに応じて頑張っていると感じられることが重要になっている。
- ・ 学校での運動のほかにスポーツ活動をしたい子はもちろん、部活動の地域移行が始まったことで、スポーツ少年団等に参加し自分の力をより伸ばしている子が増えていると感じている。
- ・ 子どもたちがスポーツをしたい、また、親もスポーツをさせたいと思っても、金銭的、時間的な制約が体験格差につながるため、皆が楽しくスポーツをするための環境整備を考えていく必要がある。
- ・ スキー学習を減らす学校が増えている中で、雪国山形においてスキーを継続していくためには、何が必要か考えていく必要があるのではないかと考えている。

#### 【池田めぐみ 委員（(一社)ヤマガタアスリートラボ 代表理事）】

- ・ 現在、スポーツ界では「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンス」というワードがトレンドとなっており、これまでハイレベルのスポーツの中で活用されてきた医学やコンディショニングなどの知見を、人々の暮らしや生き方にどのように役立てることができるのかを考えていくことが求められている。
- ・ スポーツの価値を高めるためにも、子育て分野や福祉分野など、スポーツと他の分野との連携も考えていく必要がある。
- ・ 第2期計画の策定にあたっては、実際に活動するアスリートをはじめ、スポーツに関わる人の声や思いを集め、反映させていただきたい。
- ・ 障がいがある方もない方も一緒にスポーツに取り組める機会の創出と情報の発信に力を入れてほしい。

- ・ 救命救急や指導者の資格がない指導者が指導している現場もあるので、スポーツ活動における安心・安全の確保について十分取り組んでほしい。併せて、スポーツの現場におけるハラスメント、暴力の根絶は次期計画に盛り込む必要がある。

#### 【金塚洋輔 委員（K-project 代表兼監督）】

- ・ 上山市の蔵王坊平には、国のナショナルトレーニングセンターとして指定されている高地トレーニングの強化拠点施設（蔵王坊平アスリートヴィレッジ）があり、バスケットボールや陸上等のトップ選手が利用しているが、県内の選手の利用は少ない状況にあるので、利用が促進される仕掛けがあるとよい。
- ・ 県でジュニアを強化していくためにも、医科学トレーナーがおり、トップ選手のデータが集約されているアスリートヴィレッジの活用が考えられる。

#### 【井上聡子 委員（さとこ女性クリニック 院長）】

- ・ スポーツドクターにはそれぞれ得意分野があり、ほとんど交流がない状態であるので、交流を図る必要があると感じている。
- ・ 女性アスリートの相談窓口をしていると、ハラスメントに関する相談を受けることがあるため、次期計画にはあらゆるハラスメントの撲滅に関する文言を盛り込んでほしい。
- ・ 施設整備について、東北地方で（公式の競技会の開催可能な）屋内 50m プールがないのは山形県のみとなっていることは認識してほしい。

#### 【黒沼祐蔵 委員（山形県障がい者スポーツ協会 常務理事）】

- ・ 障がい者のスポーツ実施率はまだまだ低い状況にあるので、パラリンピックに限らず、障がい者スポーツに関する県の取組みなどを次期計画にしっかり盛り込んでほしい。
- ・ 障がい者の方からは、体育施設における段差の解消や車椅子用トイレの整備などの施設整備のほか、施設へのアクセスに関するサポートを求める声もある。

#### 【星川 委員（NPO 法人とざわスポーツクラブ アシスタントクラブマネジャー）】

- ・ 地方では少子高齢化・人口減少が著しく、指導者、選手の確保に苦労している。また、様々な競技に触れる機会がなく、小さいころから一つの競技しかできないような子もいる状況がある。
- ・ 今後は、他の市町村と連携した広域的な取組みが特に必要になってくると考えているが、金銭や移動の問題など課題もあると考えている。
- ・ 人口減少が進む中、スポーツを通じた交流人口の拡大、例えば最上川舟下りとスポーツを掛け合わせた取組みなど、豊かな自然環境や観光資源とスポーツを掛け合わせた地域活性化につながる取組みが出来たらよいと考えている。

#### 【高橋 委員（西川町スポーツ推進委員）】

- ・ 国の第3期スポーツ基本計画の中でも子どもと女性のスポーツ実施率について言及されており、県としてもスポーツ推進委員としても力を入れていく必要があると考えている。

- ・ 新しいルールや道具を準備することで、子ども、高齢者、障がい者などに関わらず、どのようなハンデがあっても同じスポーツを楽しめるような活動を行うことなどにより、スポーツ推進委員は地域活性化や地方創生に関わっていると感じている。
- ・ 本県では地域に根ざしたスポーツとしてカヌー、スケート、スキーがあり、国民スポーツ大会で上位入賞できる競技となっているが、気象状況によっては練習環境がままならない状況となるため、環境整備にも力を入れほしい。

**【奥山 委員（県スポーツ協会常務理事）】※当日欠席のため事前意見聴取**

- ・ 県の組織改編により、スポーツに関する業務が知事部局に移管されたが、部活動や学校におけるスポーツ活動は依然として大きなウエートがあるため、教育局もしっかり関わる必要がある。
- ・ 国スポの結果を見ると、少年種別の成績が下がってきている。原因をしっかりと分析して教育局も含め、県全体で次の施策を考えてほしい。

**5 その他**

特になし

**6 閉会**